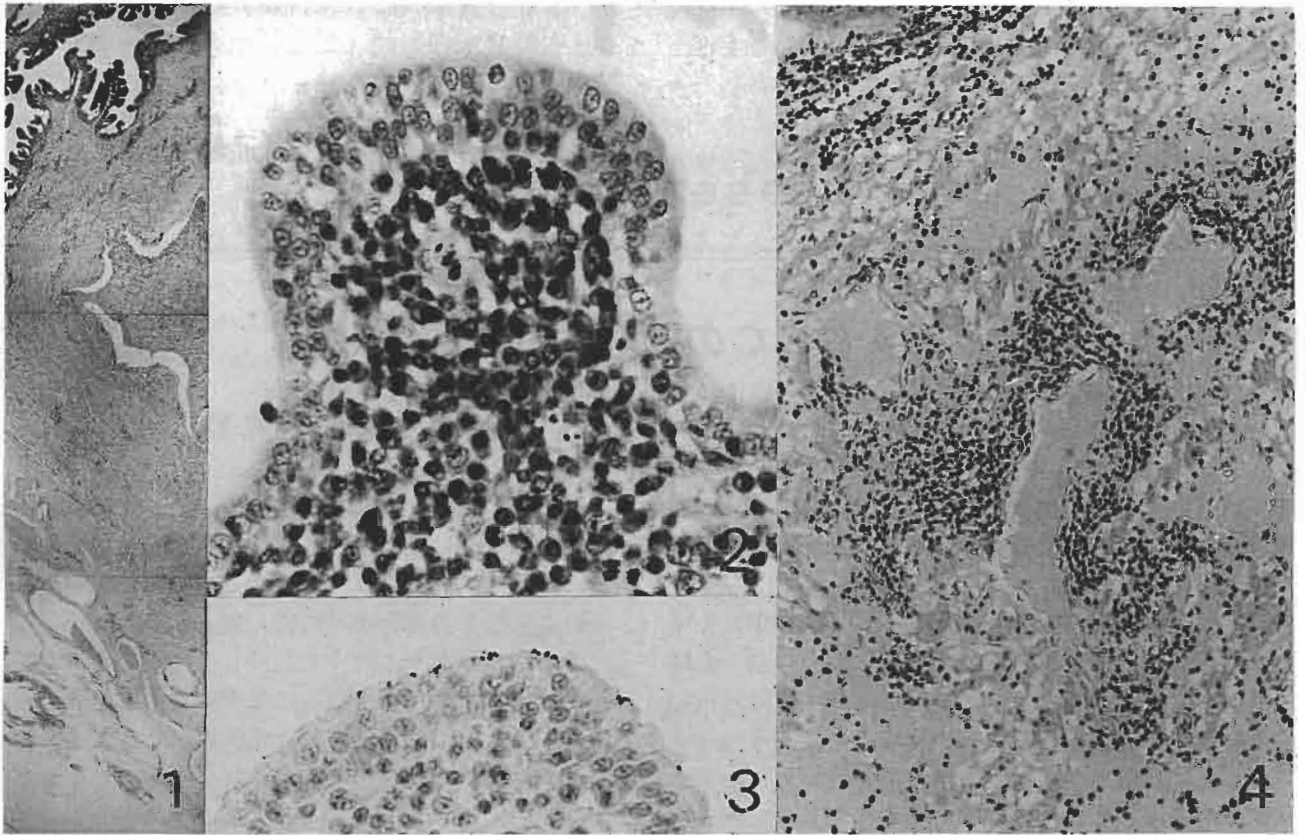


鶏の卵管

日本生物科学研究所出題 第36回獣医病理学研修会標本No.669



動物：鶏，雌，400日齢。

臨床的事項：250日齢頃から産卵率の低下が見られ、400日齢で約70%（ピーク時は91%）まで低下した。血清学的検査では *Mycoplasma gallisepticum* (MG) に対する平板凝集抗体が強陽性であった。

肉眼所見：卵管は萎縮し、漏斗部～膨大部にかけて小指頭大の嚢胞形成（卵管水腫）が見られ、隣接する膨大部には赤褐色ゼリー様滲出物を容れていた。その他、卵巣萎縮、気嚢炎、卵黄性腹膜炎などを認めた。尚、卵管と主要臓器の好気および嫌気培養は陰性であった。

組織所見：二つの主要病変が所見された。その一つは粘膜上皮の増生と粘膜上皮～固有層における形質細胞を主体としたリンパ系細胞の高度な浸潤であり、もう一つは、卵管平滑筋層から漿膜にかけての高度な循環障害と炎症性変化による著しい肥厚であった（写真1，×4）。粘膜上皮～固有層に浸潤する形質細胞の細胞質には明庭が明らかで、ラッセル小体が散見され（写真2，×280）、時折有糸分裂像も観察された。増生した上皮細胞の線毛喪失部位には無数の菌体集落が付着し、それらは免疫染色により抗MG

SAS株兎血清と強陽性に反応した（写真3，×200）。MG抗原は管腔内の偽好酸球やマクロファージからなる滲出物中にも混在した。抗原陽性部位の粘膜上皮の電顕検索では、直径が500～600nmで、MGに特徴的な末端泡状突起を有す菌体がそれら突起を介して、残存する線毛や上皮細胞膜に付着して認められた。一方筋層では、脈管系は充・鬱血して拡張し、それら周囲には形質細胞などのリンパ系細胞が浸潤していた。（写真4，×80）拡張した血管腔内や筋層間質および漿膜には血液液性成分の貯留あるいは滲出が顕著で、平滑筋線維の空胞化を伴っていた。

診断ならびに考察：鶏のマイコプラズマ性卵管炎。マイコプラズマによる生殖器病は人を含む各種動物で知られている。鶏のMG感染による卵管炎はこれまでも報告例があり、本例はそれらに酷似する。提出例に見られた卵管壁の著しい水腫性変化は本部位に分布する豊富な血管系の一部がMG感染による炎症性変化によって循環障害を受けた結果と考えられる。MGの感染ルートとして気嚢炎からの波及が一つの可能性としてあげられた。